

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会
事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

第44回北海道博物館大会 6月30日・7月1日、小樽市で開催

第44回北海道博物館大会および平成17年度北海道博物館協会総会を下記のとおり開催いたします。多くの会員の参加をお待ちしております。

会期 平成17年6月30日(木)～7月1日(金)
会場 小樽グランドホテル
〒047-0032 小樽市稲穂1-4-1
電話 (0134-25-1515)

■大会テーマ 開かれた博物館をめざして
—指定管理者制度を考える—

■大会日程

《1日目》6月30日(木)
9:30～10:00 受付
10:00～10:30 開会式
1) 主催者挨拶 北海道博物館協会会長
2) 歓迎の辞 小樽市教育委員会教育長
3) 祝 辞 日本博物館協会会長・北海道教育委員会教育長
10:30～11:15 総会
11:15～11:25 表彰式
11:25～12:00 特別報告「日本博物館協会の主要事業と最近の動向」
報告:財団法人日本博物館協会
専務理事 五十嵐耕一氏
12:00～13:15 昼食
13:15～13:30 総会
13:30～14:40 特別講演「指定管理者制度について」
講師:北海道総務部行財政改革推進室
団体指導グループ

主幹 佐藤嘉大氏
14:50～17:10 シンポジウム「開かれた博物館をめざして—指定管理者制度を考える—」

司会者:黒松内町ブナセンター
センター長 高橋興世氏

パネリスト:

北海道総務部行財政改革推進室
団体指導グループ

主幹 佐藤嘉大氏
明治大学学芸員養成課程
教授 矢島國雄氏
倶知安町教育委員会
社会教育課長 矢吹俊男氏

17:10～17:20 閉会式
《二日目》7月1日(金)

施設見学会
Aコース
9:30 市立小樽文学館集合
9:30～10:30 市立小樽文学館、市立小樽美術館
10:30～11:05 金融資料館(旧日本銀行小樽支店)

Bコース
9:30 小樽交通記念館集合
9:30～10:00 小樽交通記念館
10:20～10:50 旧日本郵船(株)小樽支店
10:50～11:10 北運河

Aコース/Bコース(2コースの合流)
11:15～11:45 小樽市博物館
11:45～11:50 閉会式
11:50 解散

第44回北海道博物館大会開催地 小樽市

今年度の北海道博物館協会大会は久しぶりに小樽で開催されます。

前回の開催時、小樽は運河埋立論争のさなかであり、一方でまだ北海道経済の中核を担う地域でした。しかしその後の20年間で小樽は年間800万人の人が訪れる観光地になりました。そしてその観光の中心は運河とそれを囲む歴史的な街並みでした。

小樽市博物館は昭和63年にその観光スポットの中心の運河沿いに移転しました。

明治26年建築の旧小樽倉庫の雰囲気をいかし、商都小樽の発展を展示の中心とした展示は小樽市民だけでなく、小樽を訪れる多くの人々に歴史的な街並みの背景、人々の歩みなどを紹介し、観光に深みを与える機能を果たしてきました。

会員の多くの皆様も一度は小樽を訪れた経験をお持ちでしょう。あえて貴重な紙面を載いて皆様にご紹介するまでも無いほど、有名な観光地になりました。

長く続いた運河論争は市民の意識にも、行政の取り組みにも変化をもたらしました。歴史的建造物の保全制度は全国的にも早くから取り組み、また市民の歴史的景観に対する意識も高く、そのバックデータを知るため博物館を利用される皆さんも多くいらっしゃいます。

ところが近年その好循環にかげりが見られるようになり、観光客が次第に減少傾向に移り始めました。そして明治以来蓄積された歴史的資源がずいぶん目減りしてきたのです。博物館、文学館、交通記念館、そして一昨年開館した日銀金融資料館など人々がこの町の歴史に触れる場所は充実してきました。またボランティアガイドや歴史研究の民間団体など積極的にこの町の歴史的資源を生かしていこうとする人々も生れています。

昨年、博物館では市井の人々に、当館所蔵の古い写真や動画をみながら自ら体験した歴史を語っていただく「町の語りべ」という企画を実施し、毎回200人を超える聴衆が集まりました。これは市民が運河埋立に匹敵するような事態であるとの危機意識をお持ちになっていることもあるのではないかと考えています。

「歴史とロマンの町」小樽は今、曲がり角に立っています。しかし、運河埋立論争を乗り越え市民

の意識は大きく変わりました。博物館、文学館などもこの町の歴史的資源を守る使命を持っており、また守ろうとする人々の基盤を作るお手伝いもできるはずで。

小樽でも、全国の博物館と同じく、民間委託、入館者減少、予算削減など多くの課題をかかえています。そのなかで地域の歴史的資源そしてあまり知られていない自然資源の活用に向けて博物館などの機関をどのように利用していただくか、私たち博物館はなにができるのか、模索している現状もぜひごらんいただきたいとおもっております。

各館のご案内

【小樽市博物館】

運河沿いの倉庫を改装して再利用しています。商都小樽をテーマにした第一展示室と、自然と忍路土場遺跡を中心とした第二展示室を常設しています。エクスカッション最終目的地となっています。

【市立小樽文学館】

旧日本銀行の向かいに美術館と同じ建物にあります。大会開催期間は特別展「伊藤整展」を開催中です。小樽商科大学と共同で実施するこの展示は伊藤整の作品紹介にとどまらず、チャタレイ裁判の背景など多岐にわたる側面を紹介します。文学館もエクスカッションのコースになっていますのでご参加ください。なお、美術館は展示替えのため臨時休館中です。

【日本銀行金融資料館】

平成15年に日本銀行小樽支店を改装して建てられました。日銀のPR施設として位置づけられ、金融システム、偽造防止の取り組みなどが紹介されていますが、かつて北海道経済の中心地であったころの様子を垣間見ることができます。入館料無料。

【小樽交通記念館】

北海道鉄道発祥の地、手宮に建てられた交通博物館。第3セクターが運営。さまざまな交通関係の資料、車輛が展示されていますが、「蒸気機関車資料館」におさめられた工具、部品類はぜひごらんいただきたい資料です。また近代化遺産では道内初の国指定重要文化財となった旧手宮鉄道施設（三番機関車庫、転車台など）が保存されています。エクスカッションのコースになっています。

【重要文化財 旧日本郵船小樽支店】

工部大学校最初の卒業生4人のうち3人の作品が残されている小樽ですが、その中でも旧日本郵船小樽支店は佐立七次郎の現存する唯一の大型建造物です。かつて小樽市博物館として利用されていましたが、建築当初の姿に復元し明治期近代建

築の粋を目の前にすることができます。エクスカージョンのコースとなっています。

【北ーヴェネツィア美術館】

北ーガラスが運営するベネツィアングラスを展

示する美術館。現在特別展「ヴットリオ・コスタンティーニの小さな世界展」を開催中。入館料700円

(小樽市博物館 石川 直章)

新館オープン 釧路市こども遊学館

■遊びと学びの交差点

子どもたちが全身を使って力いっぱい遊ぶそして学ぶ施設。

「遊び」ともう1つの大事な要素「学び」、この2つの要素の融合こそが釧路市こども遊学館の大切なコンセプトです。

「遊び」と「学び」の2つは一見相反する存在であるかの様な意味合いに取られがちであると思いますが、私たちはこの遊学館という施設を通して子どもたちが、五感をはじめ知性、感性、経験など自分の能力を精一杯発揮して遊び、その経験からの創意工夫、新しい発見をしてもらえると考えています。その結果は、経験の深まりにつながり、新たな知識や能力が自然に身についていく「学び」につながっていく筈です。

釧路市こども遊学館が、子どもたちにとって、無限の可能性を引き出す場所であり、「遊び」と「学び」が毎日行きかう交差点の様な、そんな存在になればと考えています。

■施設の概要

1階には屋内では国内最大規模の砂場のある“さんさんひろば”、そして、ネットジャングル・ボールプール等、子どもたちが全身を使って思いっきり遊ぶことができる“あそびらんど”、3階には、水・風・光・振動など科学を題材とした参加体験型の展示物が充実している“ふしぎらんど”、4階“ものしりらんど”には、工作や科学実験を行う事ができる創作工房・実験工房の2つの教室の他、科学関連の資料や科学学習用ソフト等の閲覧・視聴ができる視聴覚コーナーもあり、子どもたちが不思議に思った事を自分自身で調べる事もできます。

また、施設の中で宙に浮いているように見える白い球体・プラネタリウム『スターエッグ』は、光学式とデジタル式の二種類の投影機能を併せ持つ世界初の「ジェミニスターⅡ」を導入。約26万個の星空を映し出したり、リアルタイムCGにより宇宙旅行のシミュレーション・過去や未来の宇

宙へタイムトリップできる等、今までに体験した事のないダイナミックな宇宙空間を再現することが可能になりました。是非、皆さんに体験していただきたいと思っています。

【住所・交通】

〒085-0017 釧路市幸町10丁目2番地
釧路駅より徒歩8分

〔最寄のバス停〕北陸銀行停留所で下車、徒歩5分・合同庁舎停留所で下車、徒歩1分

【開館時間】

午前9時30分～午後5時まで
(入館は午後4時30分まで)

【展示室観覧料】(1名様1日限りの金額)

小・中学生100円 高校生200円
大学・一般500円 ※団体割引有

【プラネタリウム観覧料】(1名様1回限りの金額)

小・中学生100円 高校生150円
大学・一般400円 ※団体割引有

【定期観覧料】展示室・プラネタリウム共通1名様1年間有効

小・中学生500円 高校生1,000円
大学・一般2,000円

【休館日】

毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)
12月31日～1月5日まで

※ 4月29日～5月5日・春休み・夏休み・冬休みの期間及び祝日は月曜も開館

【ホームページ】<http://kodomoyugakukan.jp/>

【Eメールアドレス】mail@kodomoyugakukan.jp

【TEL】0154-32-0122

【FAX】0154-32-2033

(こども遊学館担当 管野 文人)



道央ブロック
News

GW企画『和食の風景』展

江別市セラミックアートセンターでは今年のGW企画として創作食器展『和食の風景』を開催しました。本展は道内の陶芸家をはじめとする工芸作家が新作の和食器を持ち寄って、思い思いの食卓をコーディネートするという企画で、江別や札幌を中心に51人の作り手が出品し、3週間の会期中に1772人の方々にご来場いただきました。

昨年までこの時期は『ティータイムの風景』として、陶芸家が出品した茶碗で実際にお客さんに珈琲や紅茶を楽しんでいただくという企画を8年間続けてまいりましたが、「そろそろ別のテーマで」という声に応じて今回の企画となったものです。会場には飯茶碗、小鉢、皿、片口、湯呑、徳利など多種多様な器が並び、とりどりの釉薬や絵付が彩りを添えて、楽しい和食の風景が広がりました。実際に使ってもらうことは出来なかったものの、手にとって触れ、また購入の予約もできるという趣旨に企画の新鮮さも加わって来場者の評判は

上々、入場者数も昨年を大きく上回る結果となりました。

ただちょっと気になるのは、「創作食器展」という基本コンセプトが必ずしも生かされていないことです。来年もまた同じ企画で行うかどうかは分かりませんが、作り手には新たな創造性、デザインへの取り組みなど、今以上に挑戦的な試みを期待しています。

(江別市セラミックアートセンター
館長 園部真幸)

道南ブロック
News

郷土資料館の体験学習

八雲町郷土資料館では、小学生を対象にした体験学習を色々行っています。『少年文化財教室』と言う事業では、月1回のペースで集まり、バードウォッチング、草木染め体験、火おこし体験、昔の遊びやおもちゃ作り体験など、体験学習を通して自然や歴史について学ぶ事を目的にして実施しています。名前は文化財教室ではありますが、文化財とあまり関係のない絵手紙やパソコンを使ったカレンダー作り、アイス・バター作り体験なども参加者に好評なのでプログラムの中に取り入れてやっていますが、毎年同じような事業の繰り返しになっているきらいがあり、新たな事業を考え中です。他に『化石採集体験学習』という事業があり、町内に見られる瀬棚層という地層にある約100万年前の貝化石を採集する事業をやっています。化石は小学生に人気があり参加者は集まりますが、実際に採集地に行くとなると見た目には現在の貝殻と見分けがつかない貝化石ばかりで「アンモナ

イトや恐竜の化石はないの？」という質問をいつも受けます。参加者がイメージする化石と実際にある化石には違いがありますので、化石の種類や化石の成り立ちなどの学習をして、ここでは現在では絶滅した貝やここでしか見られない貴重な貝化石も含まれている事を説明し、化石の大切さを学習します。町内には化石が採集できるところが限られており、新たな採集場所を模索中です。

『縄文体験学習』という事業では、土器作りや勾玉作り体験などを行っています。土器作りは、土器作りと野焼きの2回に分けて実施しています。勾玉作りは、参加者が多く昨年は2回に分けて実施しました。小学生低学年は保護者同伴と言う条件で募集しており、作る楽しさと学びながら親子のふれあいの場にもなっているのかと考えています。

今の子供達は、あまり外で遊ばなくなり、もっと自然とふれあう機会を作りたいと考えていますが、実際には参加者の怪我が一番心配で、その結果、事業内容がマンネリ化してしまいます。

体験学習は社会教育の事業でも行っており、博物館事業としての体験学習をどの様に進めたらよいか、色々考えながら行っています。

(八雲町郷土資料館 学芸員 柴田信一)

道北地区
News

よもやま話～最近の出来事から

博物館にはいろんな生き物が、進入してくる。館周辺が自然公園となっているため鳥や昆虫は常習犯であるが、やっかいなのがカメムシやネズミなどである。先日、アオダイショウ?が館内に侵入した。第一発見者は、清掃係で朝の開館前に発見した。さっそく捕獲しようとしたが、見事に逃げられ、展示台の下に入り込んでしまった。その



後、何度か捕獲を試みたが、人の足音で隠れてしまう。このまま、捕まらず死んでしまったらどうなるのであろうか。

そんな騒動の中、二宮尊徳像を調査している方が訪ねて来た。教育委員会や図書館で聞いたがわからず、最後にあまり期待しないで博物館に来たそうだ。二宮像については、調べたことがあったので、像のある小学校へ案内した。最近多い誘拐事件のためか、ひとりで調査をしていると、怪しい人と勘違いされるそうである。わたしは、この二宮像に過去苦い思い出がある。史跡巡りツアーという博物館の講座で、銅製のりっぱな二宮像を紹介したことがある。ところがこの像が盗まれてしまった。銅像の前で解説している様子を新聞記事で紹介されたのがいけなかった。残念!

これからの予定として、士別市は朝日町と合併を進めている。新しい士別市は、9月に誕生し、面積が約2倍になり、博物館の活動地域も2倍となる。たいへんでもあり、わくわくもしている。とりとめもない話となったが近況報告です。

(士別市立博物館 学芸員 水田一彦)

日胆地区
News「日胆地区・日高地区の
研修会年間予定」

総会や研修会は、参加者の服装でだいぶ雰囲気が違う。それはもちろん、どなたが来られるかということと、集会の内容による。学芸職員関係の研修会は作業服～カジュアルなイメージ。博物館大会や、私が初めて参加した一昨年のマネジメント研修会はスーツな感じだった。余談だが地質学会はカジュアル系、地球物理などほかの分野も集まる地球惑星合同大会になるとスーツな雰囲気がでてる。

5月16日の月曜日、海の青も鮮やかな三石町へ出かけた。年に一度の日高管内社会教育職員研修会で、大きな会場に博物館関係者だけでなく社会教育に携わる職員全体が集まる。どちらかというともスーツなイメージだ。午前中は講演、午後から各部会代表の方々の実践発表(学芸員部会からは門別町の川内谷さん)を聞き、1時間程度の部会別協議を持つ。学芸員部会では、今年度の研修会についての話、各館の情報交換、共通で取り組むテーマを設けるかどうかの話などが話し合われた。

続いて、6月6日7日は日胆地区博物館等連絡協議会の総会と野外演習が虻田町を中心に開かれる。こちらはやや作業服系で、宿泊も近年はホテルではなく、和気藹々と自炊も可能な研修施設になっている。通常の内容に加え、今回は9月に予定されている道博協ミュージアムマネジメント研修会に向けてのほぼ最終の打ち合わせを兼ねる。昨年のマネジメント研は作業服系の雰囲気だったが、今年もそのようになるだろうか?

秋～初冬には日胆地区および日高地区の研修会が持たれる。年によって共同で開催したり、別々に二回行われたりする。今年は日胆地区の研修はマネジメント研修会に統合され、日高地区は別途平取町で行われる方向で検討されている。雰囲気は、例年通りなら作業服系だろう。

スーツ系の運営管理的な話、作業服系の実践実務的な話、それぞれの集まりで得られる新たな視点や解決策がある。広い北海道で、一同に介して各地の様子をうかがい知ることができるだけでも貴重な機会だ。それを楽しみにして、また出張で出してもらえんことをありがたく思いつつ、今年も出かける。

(日高山脈館学芸員 小野昌子)



北の大地に二〇〇〇年 ～史跡国泰寺歴史フォーラム～を終えて

平成16年、厚岸町では、北の大地に二〇〇〇年～史跡国泰寺歴史フォーラム～を開催しました。

これは、伊達市の善光寺、様似町の等澗院とともに蝦夷三官寺の一つに数えられる厚岸町所在の国泰寺の設置決定200年を迎えることを記念し、主に地元有志により組織された北の大地に二百年～史跡国泰寺歴史フォーラム～実行委員会（会長室崎正之）によって行われたものです。

関連事業も多岐に渡り、その幕開けは史跡国泰寺歴史資料展「史跡国泰寺～厚岸と蝦夷地寺院～」(期間:平成16年10月1日～11月14日)でした。主に国泰寺所蔵資料を中心とした「北へのまなざし～北方探検人物伝～」や「蝦夷三寺成立史」、「国泰寺歴代住職の足跡」などの各展示コーナーの他、善光寺、等澗院の全面的な協力の下、「善光寺・等澗院所蔵資料コーナー」を設置することができ、

多くの見学者の興味を惹くところとなりました。また、この他にも小学生を対象とした学習会「ものしり博士になろう」や今回の事業の一環として刊行された『史跡国泰寺資料集』を利用した学習会、さらには「古文書教室『日鑑記』に親しむ一」を実施しました。

そして、この事業の総決算として田端宏氏（道都大学教授）をはじめとした研究者の方々による記念講演と基調報告、シンポジウムを開催、多くの方々に足をお運びいただき、盛況のうちに幕を下ろすことができました。



今回のこのフォーラムが、時を超え善光寺、等澗院、そして国泰寺の新たな結びつきのきっかけになればと願わずにはおられません。

(厚岸町海事記念館 学芸員 車塚 洋)



ナウマンゾウと遺跡のまち 湧別町郷土館リニューアルオープン

湧別町郷土館は昭50年に建設され、地域の住民より寄贈された開拓資料などを展示していたが、平成16年10月に改装し、メイン展示にナウマンゾウの実物大パネルと平成10年に湧別町東芭露で発見された約3万年前のナウマンゾウの臼歯の化石が展示された。

ナウマンゾウの実物大パネルは高さ4メートル、幅4.5メートルにもなり、3万年前、湧別原野を悠

然と歩くナウマンゾウの姿を想像させる。また、展示されている臼歯は、北海道で3万年前にナウマンゾウが生息していたことを証明した大変貴重なもので、古生物学や考古学関係者からも注目を集めている。

その他の展示についても、サロマ湖の湖口開削の歴史や、機雷爆発事件の紹介、農業・林業の開拓の歴史、小中学校編成の歴史、漁具・農具の紹介、商工業の発達等、湧別町の様々な歴史や郷土の品が展示されている。

先史の分野では、シブノツナイ遺跡の竪穴住居の模型や遺跡の分布図があり、昔の人々が暮らしていた様子が紹介されている。

また、縄文時代早期の北方大陸が起源の石刃鎌文化の遺跡で有名な「湧別市川遺跡」から出土した石刃や石刃鎌などの石器や土器も一括展示されている。

(紋別市立博物館 佐藤和利)

- 所在地 紋別郡湧別町栄町115番地
- 開館時間 9:00～22:00(建物続きの総合体育館に声をかけると開けてくれる)
※日曜日・祝日は17:00まで
- 休館日 月曜日 年末年始
- 入館料 無料



オホーツクの大地とナウマンゾウの展示

館・園の主な展覧会と普及事業

(2005年6月～10月)

石狩

札幌市青少年科学館(011-892-5001) 7/1～30.9/6～28 移動天文台、7/30～8/21 夏の特別展「集まれ未来の昆虫博士-驚異の昆虫世界」、7/16.8/6.7.9/17.10/29 科学館天体観望会、8/6.7.9/17.10/29 プラネタリウム夜間特別投影、8/27.28 第3回さっぽろ星まつり

札幌市豊平川さけ科学館(011-582-7555) 7/2.16.8/6.20 サケたちのエサやり体験、7/9.8/13.9/10.10/8 そと・タッチ・プール、7/10.17.24 さかなウォッチング、7/23.30.8/27 サケたちの食事タイム、10/2.9.10 親子採卵実習、10/16.23.30 サーモン・ウォッチング
いしかり砂丘の風資料館(0133-62-3711) 6～10月 プロジェクトM:博物館をつくれ!、7月 長野商店とその時代、8月 土器作り教室、9月 勾玉づくり、石狩ビーチコマーズ(秋)、9/1～10/31 サケの考古学

北海道開拓記念館(011-898-0456) 7/5～8/7 彩色土器とその技術、8/26～10/16 HORSE-北海道の馬文化-

北海道開拓の村(011-898-2692) 7/2 むらの講演会「和田郁次郎と広島開墾地」、7/18～8/14 「夏・むら・ロマン」(8/6.7 セタ飾りづくり、ローソクもらい等) 8/16 先生のための村内ガイド、9/1～10/10 第23回児童写真会絵画展、9/3 むらの講演会「八王子千人同心の蝦夷地開拓、9/12 博物館ボランティアの集い、9/17～10/10 「秋・むら・ロマン」(9/18十五夜お供え・お飾りづくり、9/23～25 秋のふるさとまつり等)、10/1～11/20 特別展「開拓使～北辰旗のもとで活躍した人々」

北海道立文学館(011-511-7655) 7/9～8/28 神沢利子の世界-北を想う・北を描く、7/22 カルチャーナイト2005、7/27～29 ファミリー文学館「第4期・夏休み文学道場(中高生のための創作講座)」9/3.4 シネマラソンin文学館、9/10～11/13 原田康子の北海道-小説「挽歌」から50年、9/23 胡弓と朗読の夕べ

北海道立近代美術館(011-644-6881) 6/7～7/18 円空さん-ほとけさま、笑ったよ。6/7～8/28 光と水と風と-美術にみる気象、7/26～8/28 ベラルド・コレクション流行するポップ・アート、9/3～12.4 北海道美術1970-1990、9/9～10/22 アートオブスター・ウォーズ展

北海道立三岸好太郎美術館(011-644-8901) 4/1～6/26 三岸好太郎に関するノット-節子が解説する好太郎、7/1～9/11 画家・三岸好太郎の生涯-天才新進画家から31才の死まで、9/17～10/26 生涯100年記念 三岸節子展

千歳サケのふるさと館(0123-42-3001) 6/1～8/15 「サケとヒグマ展」
北海道大学総合博物館(011-706-2658) 7/5～30 「明日へ、Tomorrow-岩本孝一・北星学園余市高校の教育実践記録と夫婦」展、土曜市民セミナー 7/9「北大最初の女子学生」、8/13「ライラック観測網」、9/10「北海道周辺で急激に変化する台風や低気圧-2004年台風18号を科学する」7/19～8/7 「Flamenco(フラメンコ)-アンダルシアから日本へ」展、7/22 カルチャーナイト2005

渡島

市立函館博物館(0138-23-5480) 6/7～8/21 あたらしい函館の文化財、7/23～9/25 幕臣達の明治維新

北海道立函館美術館(0138-56-6311) 5/21～7/3 幻のロシア絵本1920-30年代展、7/9～8/28 黒澤明アート展、9/3～10/16 天使がいた時代-ヨーロッパ絵画展

ピリカ旧石器文化館(01378-3-2477) 毎月第3土曜日 石器づくりセミナー

(財)開陽丸青少年センター(01395-2-5522) 7～9月 帆船・マリナー体験と歴史学習事業、夏休み 開陽丸をもっと知ろう事業

後志

(財)荒井記念美術館(0135-63-1111) 4/16～12/15ピカソ常設展-

ラ・セレスティニス、ピカソ企画展-4/16～7/24ピカソと晩年の創作、7/26～9/11ピカソ変貌の軌跡、9/13～12/15ピカソの交遊録、西村計雄企画展-4/16～8/7のびやかな自然、8/9～12/15のどかな景色、4/16～12/15生まれ出づる悩み展I・II、4/16～12/15荒井記念美術館大賞展'93、7/13～8/27ミュージアムロード4館共同展-歳時記、7/13～8/27東文堂所蔵-絵本原画展

(財)北-ヴェネツィア美術館(0134-33-1717) 4/19～7/26 ヴィットリオ・コンスタンティーニの小さな世界展、7/27～11/18 ルチオ・ブッコ展

小川原情記念美術館(0136-21-4141) 6/8～7/10 ふるさと山の山展、7/13～8/21ミュージアムロード4館共同展-えかきの歳時記、8/25～9/18第47回龍彩会展、造形展-風の中の展覧会'05、9/21～10/16龍彩会の作家たち7-坂口清一展、10/19～11/13龍彩会の作家たち8-鈴木康子展

余市水産博物館(0135-22-6187) 8/23～10/2 旅のかたち

余市宇宙記念館(0135-21-2200) 4/16～10/31 野口宇宙飛行士 初フライト特別展

空知

砂川市郷土資料室(0125-52-2339) 7/6～8/29 団扇で彩る夏空間展、10/5～11/28 スイーツの秋 スイートロード菓子店の歴史展

滝川市美術自然史館(0125-23-0502) 7/9～8/16 碓井廣重・植物画の世界展

星の降る里百年記念館(0124-24-2121) 6/14～7/2 岨山写真パネル展、7月中旬 高橋尚基撮影 産業遺産(廃墟)写真展、7/9.10 古文書教室、7/23 産業遺産巡り(2) 芦別森林鉄道跡を訪ねる、8/3 まが玉づくり教室、8/27 産業遺産巡り(3) 三菱専用鉄道跡を訪ねる、9/17 森のきのご観察会、10/4～23 芦美会展

三笠市立博物館(01267-6-7545) 自然観察講座6/19 二枚貝の観察会、7/23.31.8/7 アンモナイトの観察会、7/17～10/2 特別展「三葉虫!」

上川

旭川市博物館(0166-69-2004) 7/2～8/21 アイヌ語地名を歩く-山田秀三の地名研究から(7/3.17.31.8/7 山田秀三地名研究資料解説)、7/23 講演会「山田秀三とアイヌ語地名をめぐって」、体験学習7/2 縄文の注口土器をつくる、7/3 親子化石採集会、8/1 縄文の知恵を学ぶ-縄文の土笛をつくる、8/2.3 昆虫採集、8/6.9/24.10/15 化石のレプリカをつくろう!①②③、9/3 アイヌ伝説を訪ねて、9/23 有孔虫(化石)を取り出そう!、10/1 木の実リース作り、10/8 アイヌ文様陶器皿を作る、10/30 探鳥会、博物館講座7/16 アイヌ文化①、8/14 シリーズ・軍都に生きる①軍都誕生-屯田兵から第七師団へ、10/23旭川のさかり場をめぐって-明治・大正期の旭川の世相、子供博物館7/23 昔の手作りおやつ-カルメ焼きとデンブせんべい、8/4 アイヌ文化を学ぼう!、10/15 ムックリをつくって奏でよう!

(財)旭川兵村記念館(0166-36-2323) 4/29～10/20 終戦60周年特別展
士別市立博物館・公会堂展示館(01652-2-3320) 6/23～7/19 菊田臥龍遺墨展、7/25 田んぼの生物観察、7/3 高山植物観察会、7/23 土器作り、7/27～29 アウトドア体験、8/6 土器焼き、8/10 天文教室、9/17.18 稲刈り体験、9/18～10/9 月見展、天文写真、9/24 釣り教室、10/1 稲を脱穀する体験、10/22 お米を炊こう

中川町エコミュージアムセンター(01656-8-5133) 7/16～10/30 「道北の化石展」、7/28～31 森の学校Jr2005夏、10/7～10 森の学校2005秋

中原梯二郎記念旭川彫刻美術館(0166-52-0033) 6/4～10/10 土谷武展 呼応する空間、6～9月頃 彫刻散歩、7月下旬 こども彫刻教室、10/2 第34回中原梯二郎賞記念シンポジウム

名寄市北国博物館(01654-3-2575) 開館10周年記念特別展7/2～8/21 夏季展「北国の薬用植物」、8/26～10/2 秋季展「樹とキノコ」、6/25.7/23.9/24.10/22 どんぐりメイト、6/26 サロベツ温泉自然探訪会、7/15 キマロキ保存30年の集い、7/16.9/10.10/8 小さな自然観察クラブ、7月中旬 アイヌの有用植物観察会とアイヌ料理講習会、

7/31 高山植物自然探訪会、9/25 キノコ観察会、10月下旬 ランプシェード作り講習会

富良野市生涯学習センター(富良野市博物館)(0167-42-2407)

7/17 高山植物ウォッチング、7/17.8/6.10/15 富良野の自然に親しむ集い、7/30~9/24(予定)「富良野盆地の活断層-富良野盆地の生い立ちを探る」、8/6 森のナイト・ウォッチング、10/15 紅葉を楽しむ

北海道立旭川美術館(0166-25-2577) 5/28~6/26 ロートレックとモンマルトル展、7/9~18 新ロマン派60回記念会員会友展、7/23~9/11 時の情景-美術の中の時間、7/23~11/7 木のころとかたち、9/17~11/6 グリム兄弟とグリムメルヒェンの世界

留萌

留萌市海のふるさと館(0164-43-6677) 6/25.26 特別観察会、7/10 夏の自然観察、7/23~8/28 第17回特別展「海峡を越えてきた武器-中世の蝦夷地」、8/7 磯の観察会、9/11 秋の自然観察

宗谷

オホーツクミュージアムえさし(01636-2-1231) 6/1~7/10 「昭和の生活」、8月「戦時下の枝幸」

網走

遠軽町郷土館(01584-2-5942) 6/10~17 「パソコン画・絵手紙・版画カレンダー展」-阿部正人氏、宇野龍氏、式部豊氏が描く魅惑の世界、9月中旬 特別展-滝澤太郎氏コレクションから-

美幌博物館・美幌農業館(01527-2-2160) 6/5~7/10 寄贈資料展、7/24~8/21 ハーブ展、夏休み中 夏休み子ども自然教室、7/24~10/16 特別展「柳瀬俊雄展-美幌博物館収蔵作品からPart3」、通年 博物館自然講座、びほろふるさと体験隊、美幌みどりの村 親子ふれあい農園、博物館歴史民俗講座、博物館モノづくり講座

北海道立北方民族博物館(0152-45-3888) 6/17~7/3 自然への畏敬-清水晶子・植物画展、6/18 植物画ワークショップ、6/25 発掘体験、7/16~10/10 特別展「アイヌと北の植物民族学-たべる・のむ・うむ」、7/16 展示説明会、7/23 親子講習会「ウバユリからでんぶんを探ろう」、7/30 特別展関連講演会「草木のいのちを食す」、8/20 草木染め体験、10/1 山の幸をつかったアイヌ料理、10/21~30 森下造形研究室作品展「素敵な革工芸」、10/28.29 北の文化体験スクール「素敵な革細工」、10/21~23 第20回北方民族文化シンポジウム「文化の十字路-北太平洋沿岸の文化」

上湧別ふるさと館 J R Y(01586-2-3000) 8/5~7 体験学習「七夕」、10/8.9 宿泊体験 J R Yにとまろう！、10/28 文化シンポジウム

紋別市立博物館(01582-3-4236) 6月平日 押し花講習会、6.10月 織りもの講座、6~11月毎月1回 こども考古学教室、博物館講座、6.9月各月日曜1回 陶芸講習会、7/23~8/11 博物館収蔵資料展「昭和の名曲レコード展」、8/13~28 北の鉱石・宝石展、8月 夏休み親子陶芸講習会、8/27.28 環オホーツク海文化のつどい、9/23~27 北海道立美術館移動展「ぐるっと美術館」、6月上旬、7月初~中旬、7月下旬~8月上旬、8月下旬~9月上旬 ホール展「紋別地方の野の花写真展」

胆振

室蘭市青少年科学館(0143-22-1058) 4/9~3/25 夢工房 おもしろなんでも実験・ロボットサッカー公開実験、5/8~ ロボットサッカークラブ、5/14~2/19 青少年科学クラブ開講、7/28~8/6 夏休み科学クラブ開講 天文・模型(A/B)・電子・海藻・パソコン、8/1 市民憲章制定記念展示室無料公開、8/24~26 市民天体観望会と天体望遠鏡講習会、9/11 秋の盆栽教室、9/18 青少年のための「科学の祭典」室蘭大会、10/1~10 「宇宙の日」記念全国小・中学生作文絵画コンテスト作品展展示会、10/7~9 盆栽展、10/8~10 科学技術振興作品展胆振地方展・発明工夫胆振地方展

室蘭市民俗資料館(0143-59-4922) 7/23~8/21 開館25年記念「民俗資料館資料・移動展」、7月下旬 ふるさと講座「丸太きり」体験学習会、8/6~9/4 特別展「終戦60年 戦争と平和展」、10月中旬 科学・歴史・文学めぐり、ふるさと講座「昔の映画を見る会」体験学習会

日高

様似郷土館(0146-36-3335) 10月 様似山道歩こう会

静内町郷土館(0146-42-0394) 6月 しずない歴史散歩、7月~9月 おやこ塾、10月以降 「しずない」展、10~12月 静内町郷土館講座
沙流川歴史館(01457-2-4085) 9/27~11/27 特別展「青トラ石と石斧」

十勝

帯広百年記念館(0155-24-5352) 6/18 図鑑で植物がわかる！、6/26 原生花園ウォッチング、7/1~14 木のある風景、7/9.16 親子陶芸教室、7/16 「記憶」を記録する-回想と民俗学、7/30 親子七宝教室、8/18~24 前期陶芸講座修了作品展、8/20 百年記念館を探検する、8/27~9/25 写真が語るとかちの戦後の暮らし、9/17 写真で見る戦後のとかち そのとき、9/25 アイヌ語で自然観察、10/8 カモを数えろカチカチカチ！、10/12 後期陶芸講座開講、10/15 レコードと昔の音の文化史Ⅱ、10/20~30 陶芸サークル展、10/23 郷土学習見学会「十勝平野の生い立ちを探る」

神田日勝記念館(01566-6-1555) 6/17 第11回無墾祭、8月上旬 子どもワークショップ、8/6~16 カトラン版画展、8/28 第13回馬耕忌、9/16~20 移動美術館、9/17 ファミリー美術館事業、10/8~16 第11回馬の絵作品展

北海道立帯広美術館(0155-22-6963) 4/8~6/26 ピカソ版画展、新収蔵品展、7/12~9/4 柳宗悦の民藝と巨匠たち展、ひとのかたち、9/16~11/7 アンデルセン生誕200年展、9/16~12/25 富谷 智展

釧路

厚岸町海事記念館(0153-52-4040) 6/24~9/27.9/30~12/16 プラネタリウム番組変更、7/1~18 海の写真展、9/4 科学のびっくり箱なぜなにレクチャー、9/17~30 海の作品展、10/15 勾玉づくり教室

釧路市立博物館(0154-41-5809) 7/30~8/21 大昔の飾りと信仰、9/25 博物館まつり、9~10月 私の博物館、10~11月 移動博物館
北海道立釧路芸術館(0154-23-2381) 4/23~6/22 黒澤明アート展、7/2~8/17 ももちゃん芸術祭 もっとワオワオ！、8/13.14 カモレンジャーももちゃんの冒険 サマージャンボ、8/27~10/13 東京国立近代美術館工芸館所蔵品展 美の匠たち-伝統と現代

根室

根室市歴史と自然の資料館(0153-25-3661) 7/6・20.8/3・17.9/7・21.10/5・19 藤野家文書解説会、7/14~17 2005年根室空襲60周年展、7/22 コウモリ観察会、7/24.8/7 土器作り体験学習、9/8.10/6 星座観察会、9/11 秋の自然観察会、9/25 勾玉作り体験学習、10/15 津波痕跡公開トレンチ調査・講演会、10/30 市街地史散歩

別海町郷土資料館(0153-75-0802) 4/26~6/30 第4回加賀家文書館「野付通行屋跡遺跡発掘調査、6/15.16 「根室から箱館までの道のり-仁助と西別川」他、7/25 コウモリ観察会

【役員異動】

新年度の人事異動等により、次の方が新役員に就任されました。

理事 太田 利光氏(釧路市こども遊学館 館長)

新木 秀幸氏(江差町教育委員会 教育長)

永崎 広実氏(静内町郷土館 館長)

山田 悟郎氏(北海道開拓記念館 学芸部長)

【新入会・退会会員の紹介】

・次の会員が加入しましたのでご紹介いたします。

団体 釧路市こども遊学館(釧路市)

特定非営利活動法人 歴史文化研究所(小樽市)

・次の会員が退会しました。

団体 金田心象書道美術館(幌延町)・苫小牧市科学センター(苫小牧市)

個人 遠藤 昭浩氏(札幌市)・田川 裕治氏(七飯町)・橋爪 実氏(訓子府町)

【会費納入のお願い】

平成17年度の会費の納入をお願いいたします。北海道博物館協会の事業は会員から納入されます会費で運営しておりますので宜しくお願いします。